

すくサポ・メール

あなたの子育てを応援します！

仙台すくすくサポート事業は、活動を開始してから今年で15年目を迎えました。「子育て支援の輪」が広がり、地域に根付いてきたのも会員の方々のご協力があったのと深く感謝しております。

これからも出会いを大切にしながら、安心して子育てができるよう応援していきたいと思っております。

【会員数】

H28年3.31現在 (人)

	利用会員	協力会員	両方会員	計
青葉区	1,046	152	56	1,254
宮城野区	485	59	22	566
若林区	318	55	14	387
太白区	581	110	24	715
泉区	603	93	17	713
合計	3,033	469	133	3,635

【援助活動件数】

H27.4.1~H28.3.31 (件)

1位	保育所・幼稚園終了後のお迎え及び預かり	2,927
2位	子どもの習い事などの援助	1,879
3位	保育所・幼稚園前の預かり及び送り	1,071
4位	児童館への迎え及び預かり	1,027
5位	その他(保護者の外出・放課後の預かり等)	2,693

総件数 9,597件

事務局からのお願い

- ◆利用(両方)会員は利用予定の連絡を、協力(両方)会員は、援助活動の報告を事務局にしてください。(電話・FAX・メール)連絡のない援助活動は、保険の対象外となります。
- ◆登録内容に変更があった会員(出産・住所変更・保育施設が変わった等)は、**会員登録変更届**を提出してください。郵便物が受取人不明で戻ってきた場合は、退会となりますのでご注意ください。
- ◆仙台市外への転居、一番下のお子さんが小学校卒業等ありましたら、**退会手続き**をお願いいたします。

編集後記

すくサポメール編集にあたり、「楽しく！わかりやすく！役に立つ！」をテーマとし、「何を伝えたいのか」を十分話し合いながら進める事ができました。

特集の「心に響く叱り方・ほめ方」では自分達の子育てを振り返る中で、周りのサポートの大切さを改めて確認する機会となりました。

私たちサブリーダーは、これからも事務局と会員の皆様とのパイプ役として子育てを応援していきます。

担当 丹野・市坪・足立

H28年度 サブリーダーの皆さん



事務局アドバイザー



池田 高橋 熊谷 石田

仙台すくすくサポート事業事務局

〒980-0011

仙台市青葉区上杉一丁目5番12号

仙台市役所上杉分庁舎8階

TEL (022) 214-5001 FAX (022) 214-8610

Eメール sukusuku@city.sendai.jp

開設時間 8:30~17:00 (月~金)

土・日・祝日及び年末年始はお休みです。

「たくさんの励ましに感謝」

初めての利用は息子が2歳前の時でした。震災の影響で身内のいない仙台に引っ越してきたのですが、月に1,2回通院やら美容院のために援助をお願いしました。

家族以外に子どもを預けることが初めてで躊躇もありましたが、貴重なりフレッシュタイムに身も心も軽くなり、気持ちよく息子と向き合うことができました。息子を出産する前まではフルタイムの勤務でしたが、3歳前にパートで働き始め、子どもを抱えて働くのは想像以上に大変でした。

夫は多忙で平日の協力は期待できないので、今まで何度協力会員さんに助けられたかわかりません。息子のやんちゃに手を焼き、真剣に悩んだ時は、息子の良いところや成長を認めていただき涙が出ました。

息子は家族と同じように優しい協力会員さんが、大好きです。

身内がない仙台で親戚のように頼りになる協力会員さんに出会えたことを心から感謝しております。

若林区利用会員 K・Mさん

「夫婦で援助が喜び！」

協力会員登録から今年で14年になります。

5人の孫も手がかからなくなり仕事と両立の援助ですが、時間をやりくりしながら託児をさせて頂き、感謝しています。また昨年8月、夫も協力会員となった事で、「幼稚園と保育所にそれぞれ分かれて迎えに行く」等、二人同時に活動が出来、利用会員さんに対してお断りすることも少なくなりほっとしています。

2歳からお預かりしていたHちゃんは小学生になり、あまり会えなくなって寂しくなりました。5か月からお預かりしているK君は3歳になり、上手に会話もできるようになりました。成長と共に私自身、お子さんから学ぶことが沢山あります。

私は赤ちゃんが好きなので小さいお子さんの預かりが多く、成長の過程に長くお手伝いできることが喜びです。夫も「明日はおじちゃんがお迎え？」と質問され喜んで活動しています。

夫婦共々、これからも大切なお子さんを怪我なく安全にお預かりすることを心がけ、二人で利用会員さんのお役に立ちたいと思っています。

青葉区協力会員 T・Hさん



協力会員さん募集しています！！



ボランティア活動や子育て支援に関心のある方、子どもが好きな方がお近くにいらっしゃいましたらお声がけをお願いいたします。男性会員の応募もお待ちしています。すくすくサポート事業事務局に、お気軽にお問い合わせください。

ステップアップ講習会を開催しました

【今年度開催】

- ◇ 6月 3日（金）援助活動の確認とグループ討議
- ◇ 7月14日（木）援助に役立つ子どもの遊び
- ◇ 10月13日（木）障がいのあるお子さんの対応
- ◇ 12月 1日（木）冬の感染症のホームケア
- ◇ 2月 2日（木）救命講習

※ステップアップ講習会は、協力（両方）会員がスキルアップするための講習会です。ご参加をお待ちしています。

援助活動の確認とグループ討議

講師 事務局アドバイザー
高橋 あつ子

「援助活動の時間、病気時の援助、安心で安全な援助活動のために」等、具体的な事例を出し合いながら、皆で再確認しました。

報酬の計算では、間違いやすい午後8：00をまたぐ計算例を重点的に取り組みました。

グループ討議では、援助活動の悩みなどについて情報交換し、他の方の意見を伺った事で、今後の援助活動の参考にさせていただけたように思います。

皆さんがより良い援助活動をできるよう、様々な講習会を計画していきます。是非ご参加ください。

障がいのあるお子さんの対応

講師 POP子育て相談室
齋藤 永子氏

昨年の基礎講座に引き続き、今回は応用編として「対応のポイント」について講話を頂きました。

ロールプレイでは、気になるケース等をテーマに「話し役」「聞き役」に徹することで、他者の話しを聞くことの大切さを学びました。その後の発表の際に出された質問事項に対して「それぞれのお子さんの障がいを個性として捉え、その子に寄り添う関わり方を考えていくこと。又、保護者の話しをよく聞き、気持ちを受け止める中で、三者間の信頼関係が生まれてくるのではないか」とまとめて頂きました。

今回の講習会が“障がい”の理解を深めるきっかけとなり、今後の援助活動の参考にさせていただけたらと思います。



援助に役立つ子どもの遊び

講師 おひさま文庫主宰
金子 きくえ氏

わらべうた、絵本の読み聞かせ、絵かきうた、簡単な工作等、とても充実した内容であったという間の楽しい時間でした。

わらべうたあそびやお話しを通して、子どもと関わる時の大切なポイントとして“ほめること”“イヤイヤをする大切さ”を学ぶことができました。

先生による絵本の読み聞かせは、みんなが童心に返った様な表情で、絵本の世界に引き込まれていました。簡単な工作も「援助活動にすぐに役立つことができた」という受講者の声も多く聞かれ、大好評の講習会でした。



交流会「親子ふれあい遊び」10/6

講師 NPO法人みやぎ子どもの丘・ぼーだーず
代表 伊藤 基氏

ボーダー模様のシャツをカッコよく着こなした講師のもと、年齢に応じて2グループに分かれ、それぞれ親子ピクスやゲーム等を楽しみました。

お母さん方も子どもと一緒に体を動かす場面が多く「日頃、運動をしていないので久しぶりに楽しかった！」との感想を頂きました。親子でふれあう楽しさは勿論のこと、何よりお母さん自身がリフレッシュする機会になっていました。



交流会は利用会員・両方会員が参加できます。来年も楽しい企画を計画しますので、是非ご参加ください！

心に響く！叱り方ほめ方

「子どもをうまく叱れない」「感情にまかせて叱ってしまう！」こんな悩みを抱えている方が、多くいらっしゃいます。NHK Eテレ「すくすく子育て」で放映された内容を参考に“叱る”“ほめる”にまつわる身近な悩みを取り上げてみました。言葉のかけ方一つで子どもの反応が大きく変わり、子育てがもっと楽になります！！

朝から晩まで叱ってばかりいます。本当に叱るべき時って、どんな場面ですか？

「叱る」ということは、その子に学んでほしい社会の価値やルールをその子にあった方法で伝え、学ばせる行為です。叱る場面はおおむね2つ！
「危険な時」と「道徳に反する時」です。まずは「冷静になり、なぜ叱られているのか、子どもにわかってもらうことが必要」です。発達段階や個性、どこまで理解しているかの度合いによって適した言い方を考えることがポイントです。

何度叱っても、何をしても伝わらない時、どうすればいいですか？子どもも私もストレスです！

子どもは、有り余っているエネルギーを「僕の方を向いて！」という形で出してくるから余計反抗してしまう“いたちごっこ”になります。まずは「一緒に遊んでエネルギー発散！」「楽しいことをするためには我慢する！方向へ」として「落ち着いたら時に丁寧に教える」ことがポイントです。

だめだとわかっているのに、つい手が出てしまいます。どんな状況でも叩くのはいけませんか？

ぶたれた痛さや怖さで一時的にはやめるけれど、相手の気持ちを考えにくくなる、ぶたれることを避けるようになるだけになります。考える力を奪わないよう、出来るだけ言葉で伝えることが大切です。時には子どもの心に傷を残すことにもなりかねません。もし、叩いてしまった時は、素直に「さっきはごめんね」と仲直りすることがポイントです。

しっかりとした親子の愛着関係を土台に！

「ほめられる」とは、「信頼している人に、がんばりを認めてもらえる、見てもらえる」ことです。できた結果を評価するのは、本来のほめではありません。努力したプロセスをほめることがいいほめ方です。更に言えば、無理に言葉にしなくても、親がニコッとするだけでも十分ほめたことになります。人間の脳は「ほめられる＝快」と感じ、様々なメリットがあるといわれています。ほめられて育った子どもは、社会性が高く、友達と上手に付き合ったり、物事にまじめに取り組んだりできます。しっかりとした親子の愛着関係を土台に「ほめる＝認める」をたくさんしてあげることが、子育ての大切なポイントになります。

※参考資料 『NHK Eテレ「すくすく子育て」愛情が伝わる！叱り方 ほめ方』



手作りおもちゃ紹介

【キューブパズル】

- ① 牛乳パックを、図の斜線部分を残して切り取る。
- ② 上の部分を折り曲げて立方体にし、セロテープでとめる(4個)。
- ③ 好きな絵を6枚用意し、台紙(14cm×14cm)に貼る。
- ④ 1枚の絵を4つに切り分ける。
- ⑤ 切り取った絵を、牛乳パックの側面にのりで貼る。

【遊び方】

- ☆立方体を並べ替えて、6通りの絵が楽しめます。
- ☆既成の絵や写真を利用して作れます。

※参考資料 仙台市ホームページ「とっておきの子育て話」

